

令和6年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	47	学校名	土岐紅陵高等学校
------	----	-----	----------

学校教育目標 (教育方針)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の在り方や生き方を主体的に考えるとともに、思いやりのある人間を育成する。</li> <li>・社会で求められる資質や品格を身に付けた人間を育成する。</li> <li>・地域社会に貢献できる人間を育成する。</li> </ul>	
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な生活習慣、倫理観及び社会的なマナーを身に付け、互いの多様性や人権を尊重し思いやる心と生命、自然、文化を大切にする生徒</li> <li>・ 自己の可能性を信じ、自己を成長させるため、生涯にわたり主体的かつ意欲的、継続的に学習する努力を惜しまない生徒</li> <li>・ 思考力と適切な判断力を身に付け、社会の進展に主体的に対応するとともに、他者と協働して豊かな地域・社会を創造する生徒</li> </ul>
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人一人の個性、感性及び長所を伸ばすための多様な科目選択を可能にする教育課程の編成と、ICTを有効に活用した粘り強く丁寧できめ細かな指導の実施</li> <li>・ 地域社会の一員としての自己有用感を持たせるとともに、主体性や協調性を育成するため、地域社会と連携・協働した体験的・実践的な活動を積極的に実施</li> <li>・ 思考力、判断力、表現力等を育成するための課題解決学習を中心とした探究的な学びの推進</li> </ul>
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 互いの違いや良さを理解し、互いに認め合う努力をするとともに、自らを律しつつ、他者を思いやり、他者とともに協調する努力ができる生徒</li> <li>・ 自己の生き方について主体的に考えるとともに、将来の多様な進路実現に向けて学習活動、部活動、学校行事などに真面目に取り組む生徒</li> <li>・ 奉仕活動や体験活動等の地域活動を通して地域社会と積極的に関わり、仲間とともに人間性、社会性を高めようとする生徒</li> </ul>
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現行の学習指導要領の3年目となり、教育課程及び系列展開において、改善点や課題がないか検証が必要である。</li> <li>・ 生徒の、ルールやマナーの規範意識の更なる向上と、生徒自身が作る規律ある学校への環境整備が必要である。</li> <li>・ 多様な進路希望に対しての支援体制が十分構築されていない。</li> <li>・ 地域と連携した各活動の運営方法において、特に地域コミュニティとは継続的な対話の場を設ける必要がある。</li> </ul>	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現行の学習指導要領において、3年次生の観点別評価方法を確立する。</li> <li>・ 地域や外部と連携し「協働的な学び」を充実させ、「主体的・対話的で深い学びができるように授業改善に取り組む。</li> </ul>
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校の落ち着いた状態を確かなものとし、活気のある学校づくりを目指す。</li> <li>・ 授業、部活動、学校行事、課外活動など、様々な場面を通して人間教育により力を入れる。</li> </ul>
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の進路についての選択肢を広げ、可能性を伸ばす取り組みの充実を図る。</li> <li>・ 四年制大学や看護系上級学校等の進学や公務員への就職などの支援の充実をるとともに、卒業後に必要な資質や学力をつける支援も行う。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」の科目において、①キャリア学習 ②進路探究 ③地域探究 を3つの柱とする。</li> <li>・ 地域連携による体験活動を通じた協働的な学習を明確に位置付けたの授業計画、およびその運営を円滑に行う体制づくりをする。</li> </ul>

年度目標				年度末評価(自己評価)				
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での 位置付け		達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	観点別評価の重みと評価項目を計画をする。	8	施策Ⅱ-8	観点別評価の計画				
	地域や外部と連携した授業を展開する。	13	施策Ⅱ-13	地域と外部との連携				
	学ぶ楽しさを感じられる教育活動の充実を図る。	8	施策Ⅱ-8	授業評価で肯定的な 結果が70%以上				
生徒指導	自己肯定感と自己有用感を育み、 自らの価値と可能性に気づかせる。	1	施策Ⅰ-1	学校評価の「生徒指導」に 関する項目で、肯定的な結 果が70%以上であるか。				
	出会いと学びを通じて、人の気持ちを考え、 発言・行動することができる力をつけさせる。	1	施策Ⅰ-1					
	基本的な生活習慣を確立し、TPOをわきまえた、 立ち振る舞いができる力をつけさせる。	1	施策Ⅰ-1					
	集団における自身の役割を理解し、他者と協働し 責任をもって物事に取り組む力をつけさせる。	1	施策Ⅰ-1					
進路指導	各学年の進路行事の目的を確実に理解させつつ、 生徒が主体的に取り組める方法を推し進める。	13	施策Ⅱ-13	①学校評価の「進路指導」 に 関係する項目で肯定的な 結果が生徒・保護者とも 80%以上であるか ②「スタディサプリ」の 到達度テストの全国平均点 との差の変化(4月と1月 を比較)				
	「国公立大学説明会」などを実施し、生徒自身が 進路の選択肢を広げ、考えられるようにする。	13	施策Ⅱ-13					
	「スタディサプリ」などの教材の活用や各行事を 通して、必要な資質や学力を身に付ける。	9	施策Ⅱ-9					
その他	産業社会と人間や総合的な探究の時間の科目 において、3年間を見通した指導計画とする。	13	施策Ⅱ-13	・授業評価、産社ノート (振り返りシート)で、 ルーブリック評価を実施 ・学校運営協議会の委員 の外部評価を聴取 ・生徒の事後アンケート				
	「産業社会と人間」は準教科書を用いた指導計画 を作成し、再現性を担保した内容とする。	12	施策Ⅱ-12					
	地域連携をCOREハイスクール事業に位置付け、 地域コミュニティとの継続的な対話の場を設ける。	13	施策Ⅱ-13					
	それぞれの活動において、複数の分掌と横断的 に協働できるよう計画する。	27	施策Ⅳ-27					

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年 月 日 学校関係者評価

実施日：令和7年 月 日